

## 関東大震災から 100 年の今

### 関東大震災遺構 墨田・江東区散歩レポート

山下千佳

1923年9月1日に発生した関東大震災から100年が経ち、震源は神奈川県相模湾、神奈川県全域・房総半島の揺れは大きく震度7・6強の地域が多くありました。

地震による犠牲者は1万1千人でしたが火災による犠牲者は9万2千人に及びました。

9月3日(日)に東京支部主催で遺構を中心に、墨田と江東区の資料館などを見学しながら、まち歩きをしました。東京都復興記念会館に10時に集合し会館の中を見学した後、道案内人の丸谷博男さん(支部代表幹事)から説明を聞き、散歩をスタートしました。

参加者は東京支部から石原重治さん、大力好英さん、千代崎一夫さん、柳澤泰博さん、山下千佳、午後から木村美千代さん、高本明生さん、泉宏佳さん(千葉支部)・酒井行夫さん(神奈川支部)、会員でない方の参加は石原さん、千代崎さん、丸谷さんのお連れ合いと全国災対連事務局の方、全員で14名になりました。

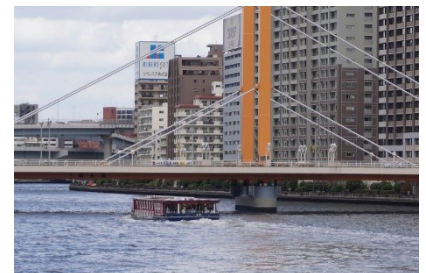


#### 東京都復興記念館 都立横網町公園

1931年に開設 震災当時の様子を伝える絵画、写真、図表、遺品などが展示されています。



深川神明宮の境内



#### 清澄庭園 大正記念館 「震災から命を守ろうー過去の震災に学ぶーパネル展」

大正記念館ではパネル展と地震当時の記録動画や防災の心得などの映像を見ることができました。



清澄庭園の周辺の深川地域は関東大震災ではほぼ全域が焼失しましたが、公開されていた場を含めて避難者1万人の命を救いました。その後、所有者の岩崎家は復旧・復興のために寄贈しています。太平洋戦争中にも住民を守り、後には庭園も寄贈されました。



### 清澄庭園・旧東京市営店舗向住宅（江東区清澄 3-3）

復興事業の一環として東京都が 1928 年に建設した店舗付住宅です。清澄通りに沿って約 250m にわたって立ち並ぶ鉄筋コンクリート造の長屋で、建設から 95 年が経過した今もなお実際に店舗付住宅として使用されており、人気のあるカフェやギャラリーなども入居しています。



深川図書館 3階で震災パネル展を開催していました。



深川江戸資料館

### 同潤会清砂通りアパート

同潤会アパートは、関東大震災後の復興を目的として「財団法人同潤会」により建設された集合住宅で、「同潤会清砂通アパート」（通称・東大工町アパート）は 1927 年に竣工されました。老朽化を理由に 2005 年に現在の「イーストコモンズ清澄白河フロントタワー」に建て替わりました。



写真上) 当時の写真 (マンション再生協議会 HP より)



### 関東大震災復興小公園 (元加賀公園)

壁泉のモニュメント 後ろを見ると井戸があり、配管も繋がっているためまだ水が出そうです。



おいしかった



最後は富岡八幡宮でお疲れ様の記念撮影 約 6 時間 歩数計は 22425 歩

横網町公園には「もう一つの緑の効果」として「樹木には町並みを美しくする働きのほかに、火災による火の粉や熱風から人を守る働きがあります」という掲示がありました。100 年の時を経て、過去の教訓を今につなげて「防災力」を高めたいです。とても良い体験学習会でした。



昼食「深川めし」お店の前で